



2024年度10月期 第2四半期

決算補足資料

正栄食品工業株式会社
(証券コード 8079 東証プライム市場)

I. 2024年10月期 第2四半期業績報告

II. 中期経営計画の進捗

業績ハイライト



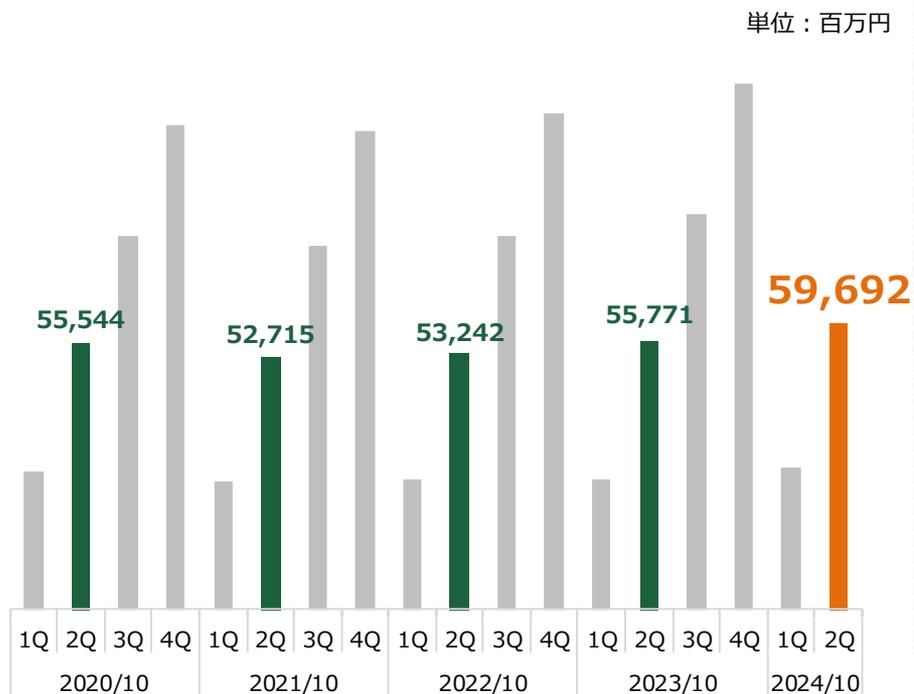
- ◆ 売上高は、乳製品やリテール商品等の日本国内での売上増に加え、米国からのクルミ輸出や中国国内でのナッツ・ドライフルーツなどの売上が増加したことから、期初予想を上回りました。
- ◆ 利益は、中国からのシード類の輸出採算の改善や中国・香港国内販売の増加に加え、エネルギーコストの落ち着きや商品価格改定の進展等から日本国内での利益が改善いたしました。この結果、期初予想を大きく上回る利益を計上し前期比でも増益となりました。
- ◆ 通期予想については、足元の状況を勘案し、上方修正とさせていただきます。

単位：百万円、%

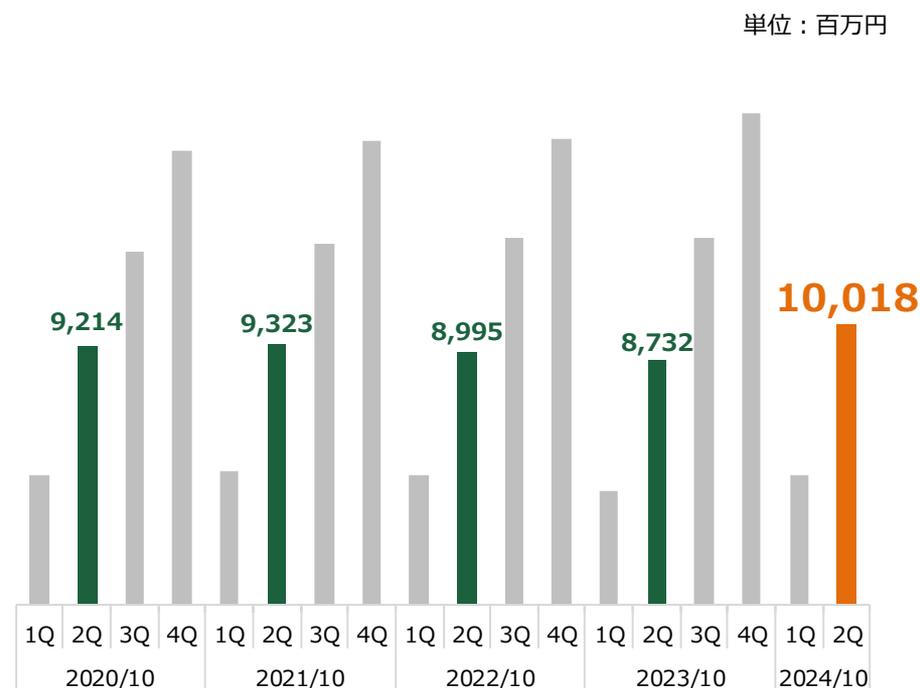
	2023年10月期 第2四半期	2024年10月期 第2四半期		前年同期比	期初予想比	2024年10月期 通期	
	実績	期初予想	実績			期初予想	修正予想
売上高	55,771	57,000	59,692	+7.0%	+4.7%	110,000	115,000
売上総利益	8,732	—	10,018	+14.7%	—	—	—
営業利益	2,097	2,300	3,092	+47.4%	+34.4%	4,200	5,000
経常利益	2,082	2,350	3,178	+52.6%	+35.2%	4,250	5,100
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,349	1,600	1,949	+44.4%	+21.8%	2,900	3,250
売上高営業利益率	3.7%	4.0%	5.1%	—	達成	3.8%	4.3%

- ◆ 売上高：2022/10期からの収益認識基準適用による減少要因がありましたが、3期連続で増収となりました。
- ◆ 売上総利益：コスト増を反映した値上げ効果もあり、大きく増益となりました。

売上高推移(四半期別)



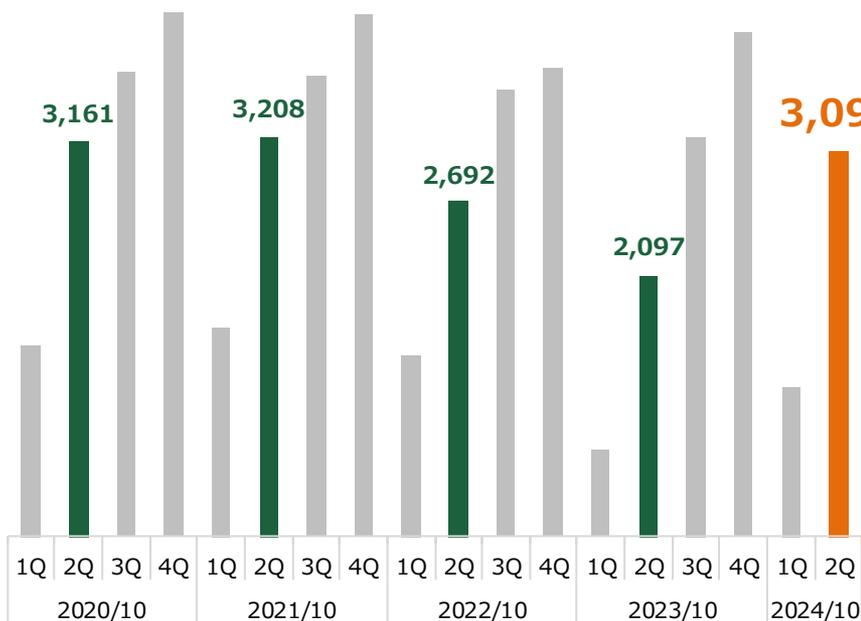
売上総利益推移(四半期別)



◆ 販管費(人件費・物件費)は増加しましたが、増収や原価率の低下により営業利益は大きく増益となりました。

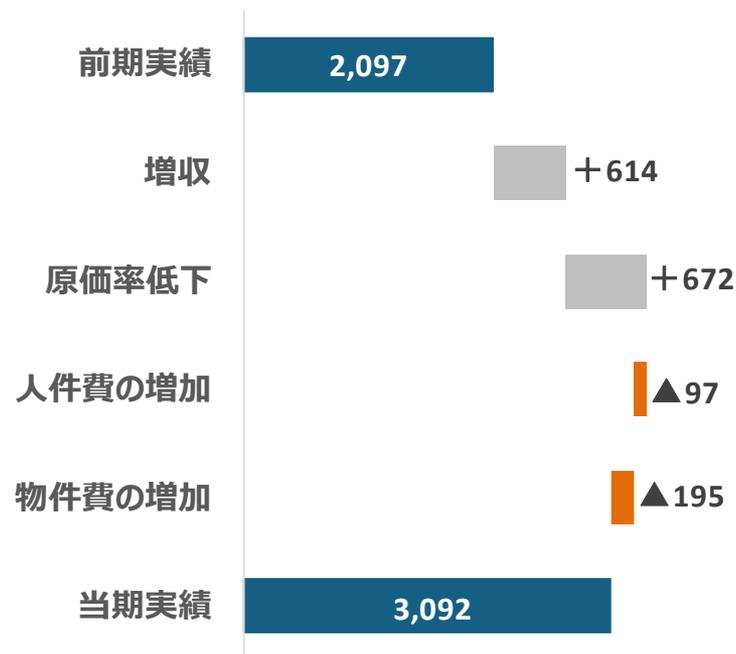
営業利益推移(四半期別)

単位：百万円



営業利益増減要因

単位：百万円



セグメント別の事業内容

日本

製菓・製パン業界を中心とした食品業界向けの食品原材料（乳製品、油脂、製菓材料、乾果実、缶詰、外食用食材等）の仕入れ、加工・製造、販売を主要業務としているほか、菓子類や乾果実類（ナッツ、ドライフルーツ）のリテール商品を製造して販売。国内に7工場を所有。

米国

SHOEI FOODS (U.S.A.), INC

- ① 乾果実類を米国内で仕入れ、日本（当社）へ輸出
- ② クルミの仕入、加工、販売
- ③ プルーンの仕入と販売
- ④ プルーン・クルミの農園経営
- ⑤ 乾果実類の輸入販売

中国

青島秀愛食品有限公司 延吉秀愛食品有限公司

- ① 製菓原材料類、乾果実類の加工・製造
- ② 加工品、製造品の日本向け輸出
- ③ 上海秀愛国際貿易有限公司や香港正栄国際貿易有限公司経由で中国・香港内での販売

上海秀愛国際貿易有限公司 香港正栄国際貿易有限公司

- ① 乾果実類を海外から仕入れ、中国及び香港で販売
- ② 青島秀愛食品有限公司、延吉秀愛食品有限公司で加工・製造した製品を中国・香港内で販売

セグメント別業績

ShoEi

単位：百万円、%

	売上高				セグメント利益			
	2023年10月期 第2四半期	2024年10月期 第2四半期	増減額	増減率	2023年10月期 第2四半期	2024年10月期 第2四半期	増減額	増減率
日本	50,976	52,553	+1,576	+3.0%	1,941	2,824	+882	+45.4%
米国	4,142	5,500	+1,357	+32.7%	379	276	▲103	▲27.2%
中国	3,896	5,252	+1,356	+34.8%	▲45	211	+257	-
調整額	▲3,244	▲3,613	▲368	-	▲177	▲219	▲41	-
合計	55,771	59,692	+3,921	+7.0%	2,097	3,092	+994	+47.4%

日本

- ◆ 売上高は、乳製品、ドライフルーツ類、菓子・リテール商品類などの売上が増加したことから、増収となりました。
- ◆ セグメント利益は、乳製品の利益が好調であり、エネルギー価格の落ち着きもあり菓子・リテール商品類の採算が改善したことから、増益となりました。

米国

- ◆ 売上高は、主力のクルミについては市場価格の低下により販売価格は低下しましたが、作柄が好調であり受入物量が増加し、出荷も順調に進んだことから、増収となりました。
- ◆ セグメント利益は、クルミについては販売は好調に推移しましたが、前年同期比で利ザヤが縮小したことから減益となり、日本向けブルー小袋の売上減少により減益となりました。

中国

- ◆ 売上高は、ナッツやドライフルーツなどの中国国内での売上が増加し、中国産シード類などの輸出も順調に推移したことから、増収となりました。
- ◆ セグメント利益は、中国産シード類などの輸出品の採算の改善や中国・香港内での販売好調により、前年のセグメント損失から改善し、黒字計上となりました。

品目別の主要商品

大分類	中分類	主な商品
乳製品・油脂類	乳製品	バター、粉乳、練乳、液状乳製品、チーズ、乳糖、ホエイ
	油脂類	製菓・冷菓・製パン用油脂（マーガリン類、ショートニング等）
製菓原材料類	製菓材料	チョコレート加工品、製菓用焼き菓子、フルーツ洋酒漬（ラムレーズン他）、ピール加工品、フルーツフィリング
	栗製品	マロンペースト、栗甘露煮、マロングラッセ
	和菓子材料	さつまいも、杏仁霜、柏葉、桜漬葉
	製パン材料	上新粉、餅粉
	仕入商品	膨張剤・ゼリー、チョコ・ココア、蜂蜜・糖類、洋酒（リキュール類他）、抹茶、胡麻
乾果実・缶詰類	ナッツ	アーモンド、クルミ、マカデミアナッツ、松の実、パンプキンシード、ココナッツ、ピスタチオ、カシューナッツ、ヘーゼルナッツ
	ドライフルーツ	レーズン、プルーン、クランベリー、ブルーベリー、パイナップル
	フルーツ加工品	リンゴ加工品、マンゴー加工品、黄桃缶詰、パイナップル缶詰
	業務用食材	パスタ、スイートコーン、トマト加工品、オリーブオイル、デザート食材
菓子・リテール商品類	菓子	チョコレート菓子、ビスケット
	リテール商品	ナッツ小袋、プルーン小袋、その他ドライフルーツ小袋、野菜加工品

品目別売上構成

単位：百万円

	2023年10月期 第2四半期		2024年10月期 第2四半期		前年同期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
乳製品・油脂類	17,409	31.2%	18,270	30.6%	+861	+4.9%
製菓原材料類	9,558	17.1%	9,567	16.0%	+9	+0.1%
乾果実・缶詰類	18,224	32.7%	20,981	35.2%	+2,756	+15.1%
菓子・リテール商品類	10,406	18.7%	10,748	18.0%	+342	+3.2%
その他	172	0.3%	124	0.2%	▲48	▲27.8%
合計	55,771	100.0%	59,692	100.0%	+3,921	+7.0%

乳製品・油脂類

◆ 価格上昇の影響もあり、輸入乳製品の販売額が増加したことから、増収となりました。

製菓原材料類

◆ 糖置換フルーツやマロンペーストなどの売上が増加となり、増収となりました。

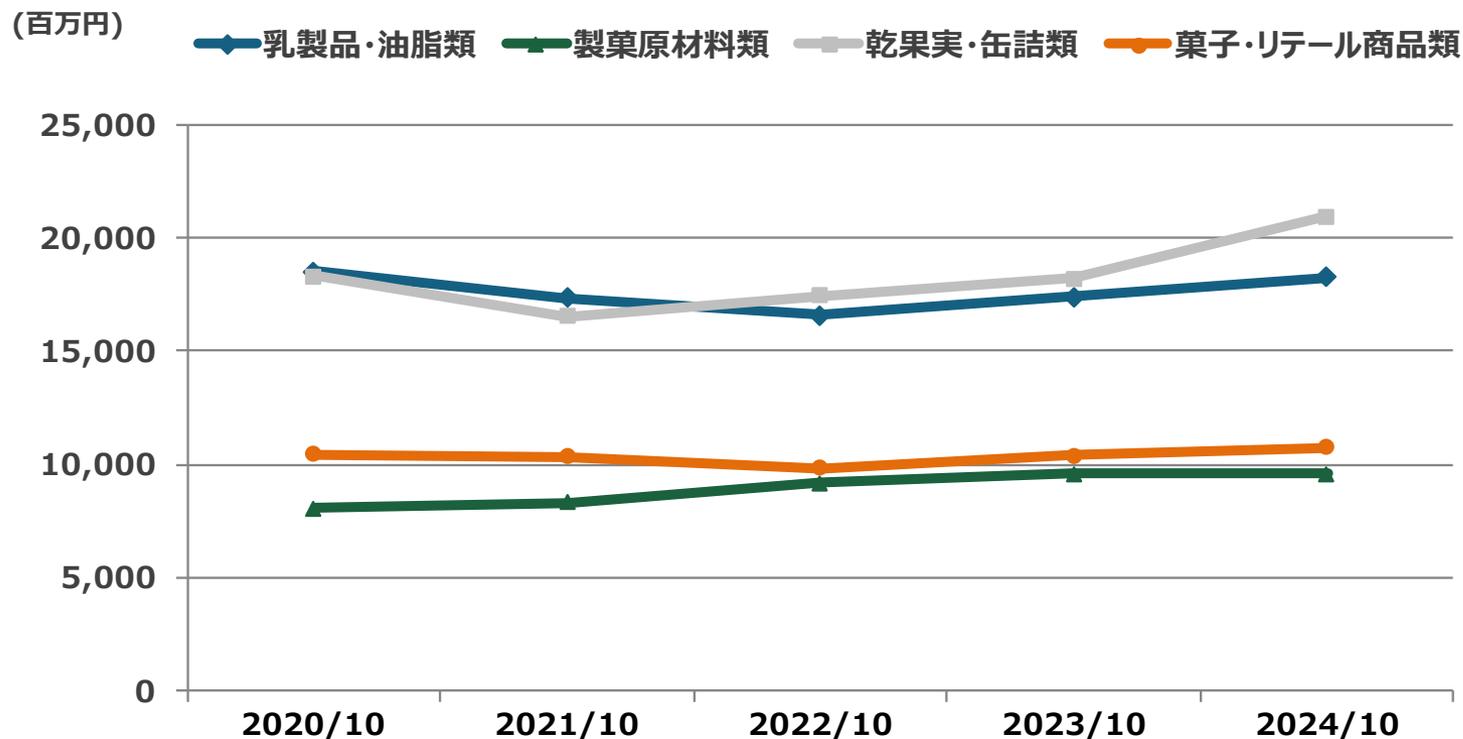
乾果実・缶詰類

◆ 米国からの殻付クルミの輸出や中国国内でのナッツ・ドライフルーツ類の販売が増加となり、増収となりました。

菓子・リテール商品類

◆ 値上げ効果もあり、ナッツ小袋などのリテール商品やPBの菓子類などが売上げ増となり、増収となりました。

品目別売上推移



連結財政状況

- ◆ 固定資産は減少しましたが、棚卸資産が増加となり、流動資産が増加し、資産合計は増加となりました。
- ◆ 流動負債は減少しましたが、固定負債が増加し、負債合計は増加しました。
- ◆ 利益の内部留保により純資産は増加しました。

		2023年10月期 第4四半期	2024年10月期 第2四半期	増減額	
資産	流動資産	現金及び預金	12,948	9,458	▲3,489
		受取手形及び売掛金	21,124	24,749	+3,625
		棚卸資産	20,104	23,649	+3,544
		その他流動資産	2,077	1,353	▲724
		小計	56,254	59,210	+2,956
	固定資産	有形固定資産	24,119	23,773	▲345
		無形固定資産	291	271	▲20
		投資その他の資産	6,787	6,904	+117
		小計	31,198	30,950	▲248
	資産合計		87,452	90,160	+2,708
負債	流動負債	27,191	26,092	▲1,099	
	固定負債	8,225	10,109	+1,884	
	負債合計	35,416	36,202	+785	
純資産	株主資本	44,890	46,458	+1,568	
	その他の包括利益累計額	6,217	6,526	+308	
	非支配持分	928	973	+45	
	純資産合計	52,035	53,958	+1,922	
負債・純資産合計		87,452	90,160	+2,708	
有利子負債		18,705	17,656	▲1,048	

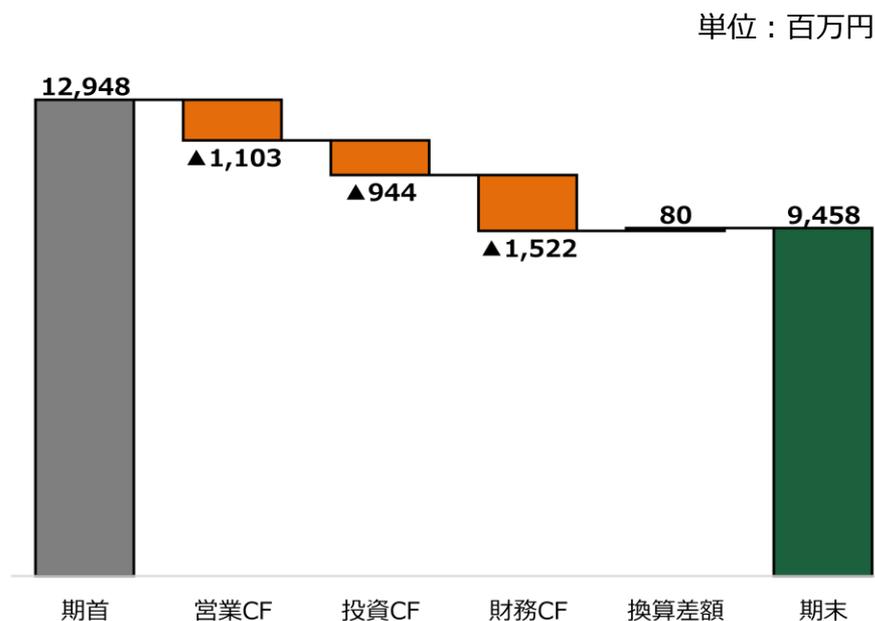
単位：百万円



キャッシュフローの状況

- ◆ 利益の内部留保は順調でしたが、例年通り、第2四半期は売上債権と棚卸資産が増加し営業キャッシュフローはマイナスとなりました。
- ◆ 前年並みの設備投資を実施し、投資キャッシュフローはほぼ前年並みのマイナスとなりました。
- ◆ 有利子負債の減少により、財務キャッシュフローはマイナスとなりました。
- ◆ 現金及び現金同等物は減少しましたが、十分な水準を維持しております。

	2023年10月期 第2四半期	2024年10月期 第2四半期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	▲447	▲1,103	▲656
投資活動による キャッシュ・フロー	▲951	▲944	+7
財務活動による キャッシュ・フロー	307	▲1,522	▲1,829
現金及び現金同等物に 係る換算差額	▲242	80	+322
現金及び現金同等物の 増減額	▲1,333	▲3,489	▲2,155
現金及び現金同等物の 期首残高	7,867	12,948	+5,081
現金及び現金同等物の 期末残高	6,533	9,458	+2,925



I. 2024年10月期 第2四半期業績報告

II. 中期経営計画の進捗

経営理念

私たちは、お客様に常に国内及び海外から厳選された安全・安心な食品を提供することで、新たな食文化を創造し、社会に貢献することを目指します。

ビジョン

私たちは、新たな食文化の創造を通じて社会に貢献できるグローバルな企業グループを目指します。そのために、お客様の变化するニーズに的確にお応えできるよう、原料調達、生産・加工、流通・販売という一貫した機能を強化してまいります。

お客様



中期経営計画の取組み状況

食品専門商社としての成長戦略

◆ 提案営業力の強化

～ShoEi創業120周年記念展示会を開催

創業から120年間、お客様の様々なニーズにお応えしながら、価値ある商品をお届けして参りました。これまでの成長を支えて頂いたお客様の視点に立ち返り、美味しくて便利な、お客様に喜んで頂ける商品展示を通じ、新しい価値の創造に貢献していきたいと考え、「おいしい うれしい あたらしい」をテーマと致しました。



2024年4月23日～24日
東京ドームシティ プリズムホール

中期経営計画の取組み状況

食品専門商社としての成長戦略

◆ 提案営業力の強化 ～ShoEi創業120周年記念展示会を開催

・Well-beingコーナー開設

健康志向、ヴィーガン食、完全栄養食など新しい需要に応えるよう、Well-Beingコーナーを特設し、食の多様性提案を行いました。



・健康で豊かな食生活へ ～健康新素材の提案

食事向け健康素材としてクルミオイル、ひよこ豆、アボガド、蒸しミックスビーンズ等、新たな素材の提案を行いました。



食品加工メーカーとしての成長戦略

◆ 設備投資による新商品の開発

国内外から仕入れた原料について、中国や日本の関係会社工場での加工・生産に力を入れており、海外輸出の拡大の可能性も含め、自社加工品の販売拡大、新たな販路の開拓を進めております。

具体的には、キャンディング・フライ・ナッツや殺菌ナッツ、クルミオイル、モイストレーズン等、グループ工場を活用し、より付加価値の高い商品の拡売に努めております。



サステナビリティへの取組み

環境への取組み

- ◆ CO2排出量削減目標を策定して開示

CO₂排出量 30%削減（2022年度比 スコープ1および2合計）

2022年度（2022年4月～2023年3月）CO₂排出量実績：45,759 t

- ◆ 米国関係会社にて太陽光発電システムの拡充を開始
⇒年内に当該関係会社の使用電力の100%を補える見込



サステナビリティの取組み



ステークホルダーとの協働



◆ フードバンクへの支援活動強化

当社では、CSR活動の一環として、2019年からフードバンク *認定NPO法人「セカンドハーベスト・ジャパン」の活動に賛同し、防災用非常食として備蓄しているビスケット、チョコレート、レトルト食品の入替時に寄贈する活動や、寄付による活動支援を行っています。また、形態上の問題や賞味期限が間近等で、品質には問題ないものの販売に適さない食品の寄贈も開始しております。



人的資本経営



◆ 女性活躍推進

社外取締役に新たに女性1名が加わり、計2名となりました。

◆ 人材多様性

女性、外国人、中途採用の管理職・監督職の職位に応じたポイントでの人材多様化に向けた目標を設定しており、進捗への課題の抽出のための、グループ各社の実態調査を行いました。

将来見通し等に関する注意事項



本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。